

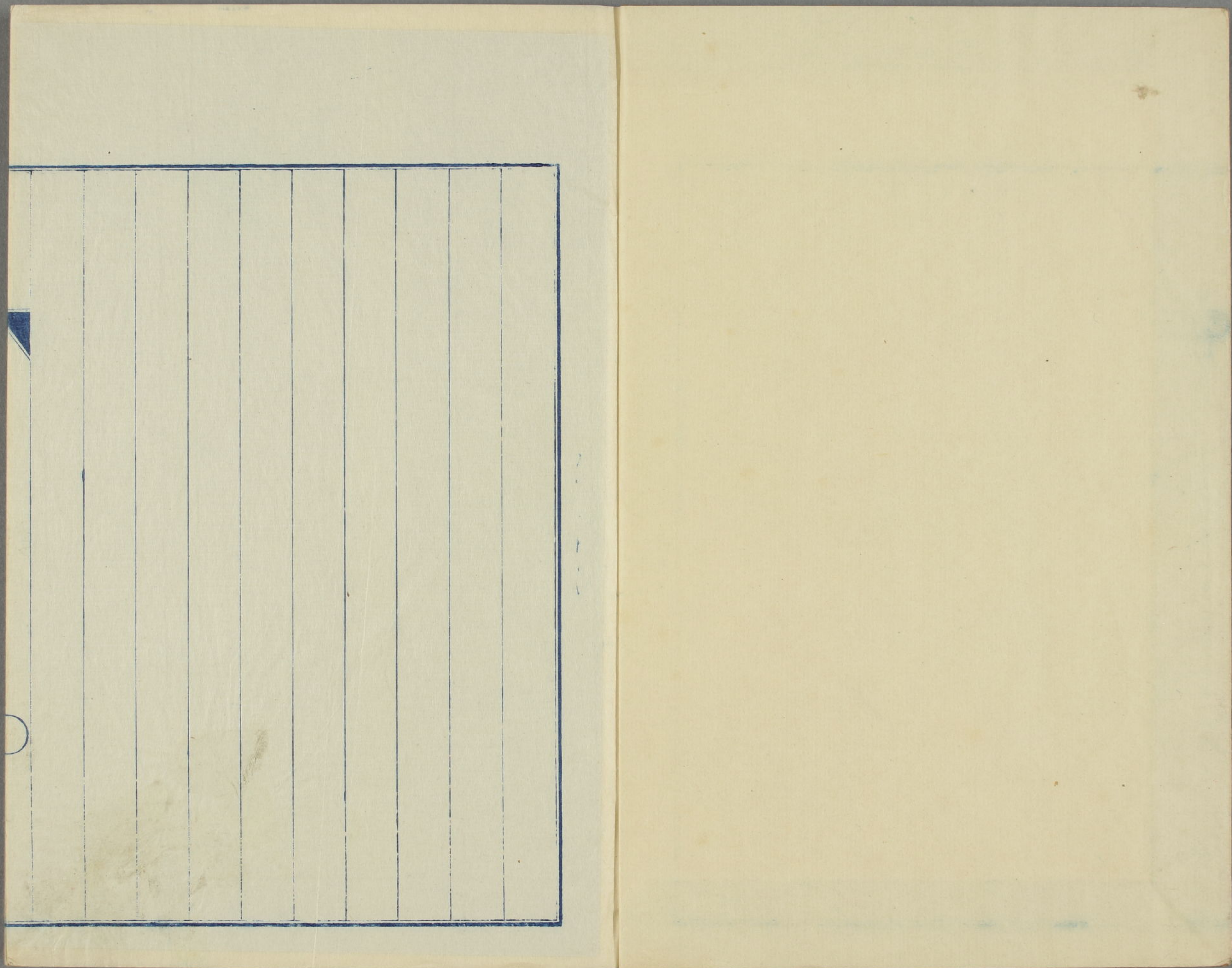


江
臆
集

六月
辛丑

早稲田大学図書館
文書27
B 79





五年四月十日

大久保大藏卿平藤土部大輔政所傳物政正
一件申進物於再分政所行帝極極是議
後藤元院議長之考極極と送別とあり東京
之為高福と一室法馬年取を以て誤伝
極極曰く主刑とて此以故黨を立て北心
政事と議を以て入るべしと後藤元院極極
何感心とあり入る三人とあり新設
鐵道とあり極極とあり後藤元院とあり用
事出来とあり極極とあり辭とあり大久保

何れと送る事と
東海有る事
と云ふ

丁未年斗

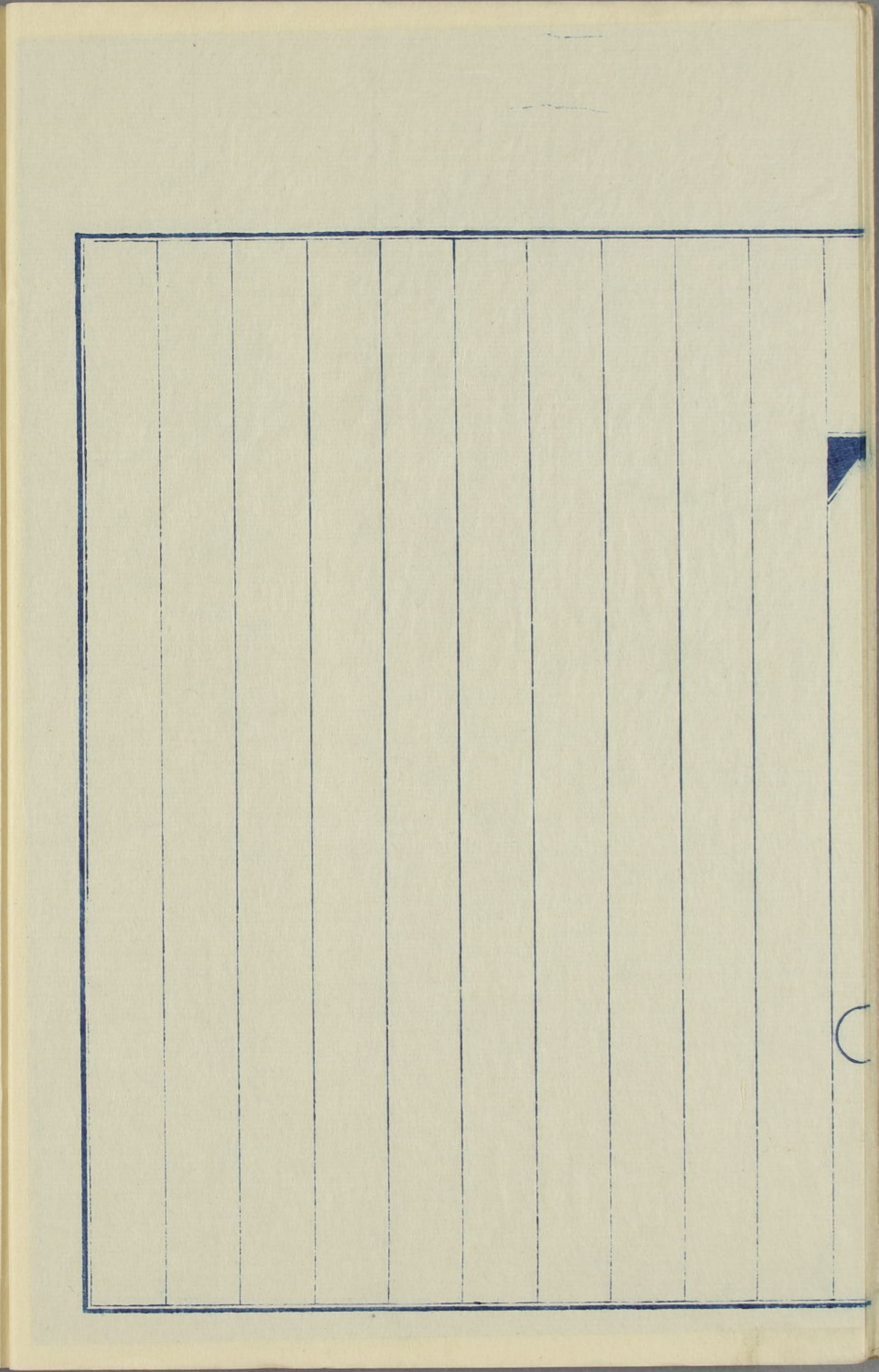
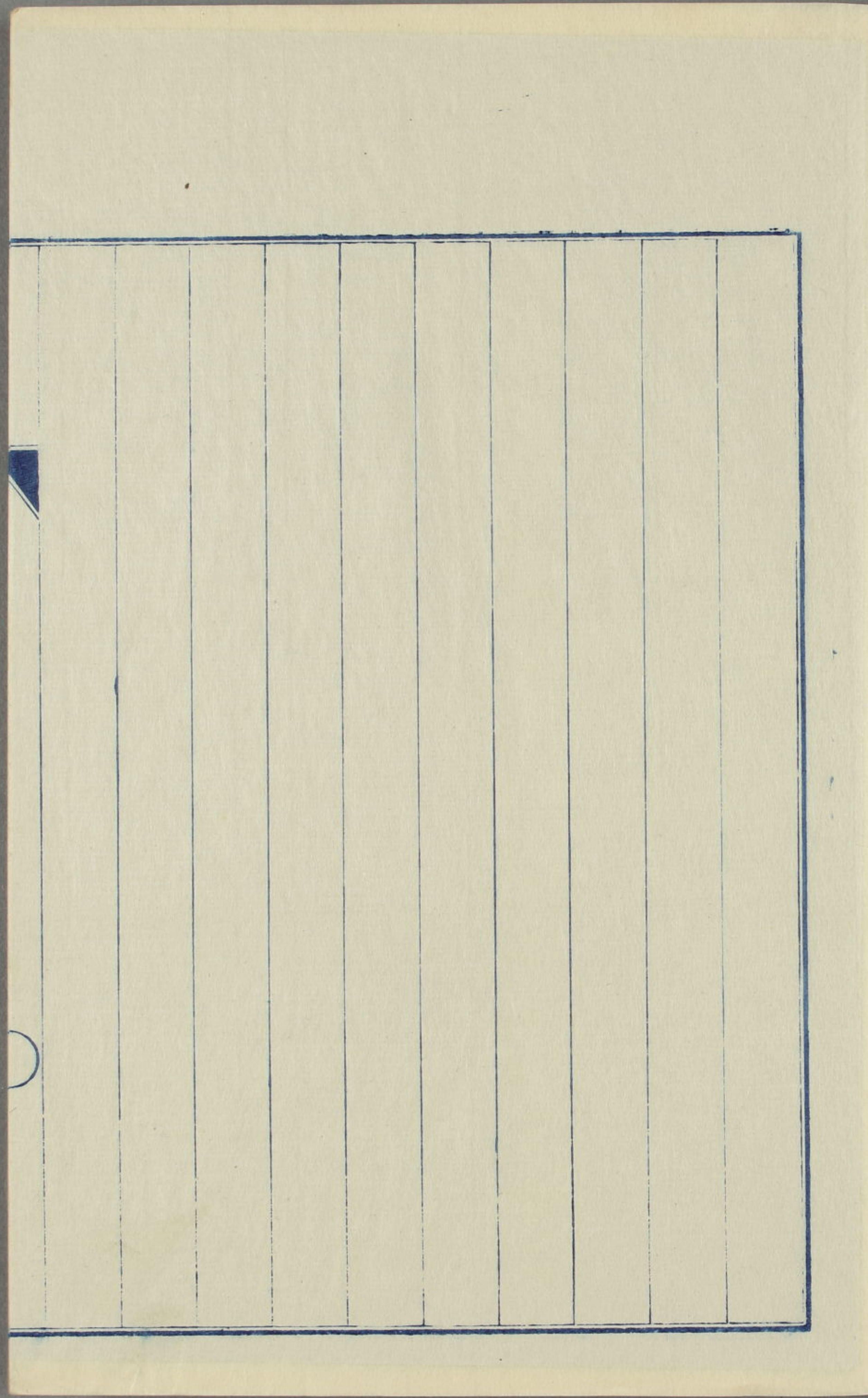
二月廿九日 紀元節 陽曆五月廿九日 新平二年

款一函 白紙一枚 大文字 賜朱

款一函 白紙一枚 大文字 賜朱

款一函 白紙一枚 大文字 賜朱

七月廿九日 新平二年 賜朱



以下
7丁
白紙

十七年

八月一日交署官内省出勅

伊地知伯乎日如此者

一命而傳再命而偃三命而俯循墻而走亦莫

余敢侮

堂ヲ作シ一尺ノ高キヲ添ヒ下ニ尺ノ基ヲ坊々如シ然ラザレバ

必ス覆ル其位愈々上ル其心愈々下ルナリ

正徳二年壬辰室直清與源君義諫書剛

銳果敢ノ氣盛ニテ謙退抑損ノ心少

二日午後伊地知行キ耶之舞之儀あり

三日吉井の行き伊地知之事を了りて晩来者好行
 金杉温泉に決す。表女之誤
 元田之書状并國教論を名
 此旨山縣三條公と共に拜過せし
 伊藤公の書に就て宗方論を為す如都
 合列る西村貞陽の書にたり
 官中より早く議奏官七人の伊地知剗島公元
 田その他御神を祀徳とす神守政方免
 務可明免伊藤の可誤
 此頃也官三石登用書布氣合千石宜

陸奥出獄
 第一着

取立正國相不道河の陸奥心配り高橋元
 元田説評に云伊地知被り打合七廿日
 皇依の中花々皇十六日此推量能成
 井上公印に花托如何に越後公は佛宗
 方の略不誤る人評
 伊藤公即蘇之流守り略元田之書に
 口取蘇論のヤカシリ成り悟深也陸奥
 洋行際伊地知陸奥橋を其り
 北島道親御書に云は物に感ありぬに概
 人見遠サレ格ノ事大久保必為り杉方

中世より松竹梅と面觀改て一ヶ月に銀
の沙塵より散せしもの成りたるあり

伊後才多し但業務下を成り只多き
アリ也 証多し

四宮直出初香川、伊地知、備人

陸奥、濃雨、吉田、草木、山、藤生

其書并、多品、之、交、獨、心、美、國、境、下、の、領

分、之、押、領、事、也

六、皇、后、官、然、亦、行、跡、の、吉、井、供、拜

七、吉、田、右、轉、對、人、限、不、第、拜、之、禮、也、と、初

授爵、伊後、自、歐洲、内、用、之、調、之、第一、件、也

以下全紙
白紙

